

YAMAHA

POWER AMPLIFIER

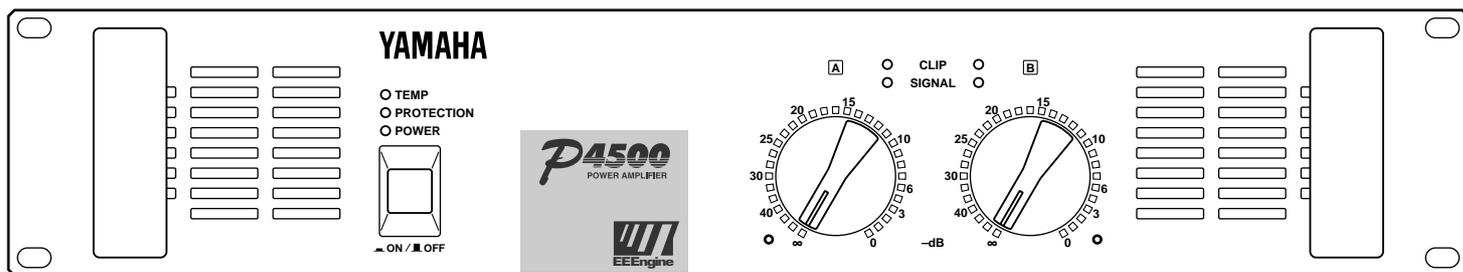
P4500

P3200

P1600

P800

取扱説明書



！安全上のご注意

安全にお使いいただくため

安全にお使いいただくため、ご使用前にこの「安全上のご注意」をよくお読みください。またお読みになったあと、いつでも見られるところに必ず保存してください。

絵表示 この取扱説明書および製品への表示では、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。内容をよく理解してから本文をお読みください。

絵表示の例

- △：注意(危険・警告を含む)を促す事項
- ⊘：決しておこなってはいけない禁止事項
- ：必ずおこなっていただく強制事項



警告

この欄に記載されている事項を無視して、誤った取扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性があります。

設置される時	
	<p>この機器はAC100V専用です。それ以外の電源(AC200V、船舶の直流電源など)では使用しないでください。火災・感電の原因となります。この機器に水が入ったり、機器がぬれたりしないようご注意ください。火災・感電の原因となります。雨天・降雪時や海岸・水辺での使用は特にご注意ください。</p> <p>この機器の通風孔をふさがないでください。内部の温度上昇を防ぐため、この機器のケースの前面・背面には通風孔があけてあります。通風孔がふさがると内部に熱がこもり、火災の原因となることがあります。</p> <p>とくに、次のような使い方は避けてください。</p> <ul style="list-style-type: none">・ 機器をあお向けや横倒し、逆さまにする。・ 本箱や押し入れなど、専用ラック以外の風通しの悪い狭いところに押し込める。・ テーブルクロスを掛けたり、じゅうたんや布団の上に置いて使用する。 <p>電源コードの上に重い物をのせないでください。コードに傷が付くと、火災・感電の原因となります。とくに、敷物などで覆われたコードに気付かずに重い物を載せたり、コードが本機の下敷きになることは、起こりがちなことです。十分にご注意ください。</p>
	<p>落雷のおそれがあるとき、電源プラグが接続されたままならば、電源プラグには触れないでください。感電の原因となります。</p> <p>この機器を改造しないでください。火災・感電の原因となります。</p> <p>この機器のカバーは絶対に外さないでください。感電の原因となります。</p> <p>内部の点検・整備・修理が必要と思われるときは、お買上げ販売店にご依頼ください。</p>
	<p>この機器の上に水などの入った容器や小さな金属物を置かないでください。こぼれたり、中に入ったりすると、火災・感電の原因となります。</p> <p>花瓶、植木鉢、コップ、化粧品、薬品なども同様です。</p> <p>電源コードを傷つけたり、加工したり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったり、加熱したりしないでください。コードが破損して、火災・感電の原因となります。</p>
使用中に異常が発生したとき	
	<p>煙が出ている、変なにおいや音がするなどの異常がみとめられたときは、すぐに機器本体の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。そのあと、異常がおさまるのを確認して販売店に修理をご依頼ください。異常状態のまま使用すると、火災・感電の原因となります。</p>
	<p>内部に水などの異物が入った場合は、すぐに機器本体の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。そのあと、販売店にご連絡ください。そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。</p>
	<p>断線・芯線の露出など、電源コードが傷んだら、お買上げ販売店に交換をご依頼ください。そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。</p>
ご使用になるとき	
	<p>雷が鳴りだしたら、早めに機器本体の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。</p>
	<p>万一、この機器を落としたり、キャビネットを破損した場合は、機器本体の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。</p>

⚠️ 注意

この欄に記載されている事項を無視して、誤った取扱いをすると、人が傷害を負ったり、物的損害が発生したりする可能性があります。

設置される時	
	<p>調理台や加湿器のそばなど、油煙や湯気が当たるような場所には置かないでください。火災・感電の原因となることがあります。</p> <p>ぐらついた台の上や傾いたところなど、不安定な場所には置かないでください。落ちたり、倒れたりしてけがの原因となることがあります。</p> <p>電源コードを熱器具に近付けないでください。コードの被覆が溶けて、火災・感電の原因になります。</p> <p>窓を締め切った自動車の中や直射日光が当たる場所など、異常に温度が高くなる場所に放置しないでください。火災の原因となることがあります。</p> <p>湿気やほこりの多い場所には置かないでください。火災・感電の原因になることがあります。</p> <p>濡れた手で電源プラグを抜き差ししないでください。感電の原因となることがあります。</p> <p>電源プラグを抜くときは、電源コードを引っ張らず、必ずプラグを持ってください。コードを引っ張ると、電源コードが傷ついて、火災・感電の原因となることがあります。</p>
	<p>オーディオ機器・スピーカーなどの機器を接続する場合は、接続するすべての機器の電源を切ってください。</p> <p>それぞれの機器の取扱説明書に従い、指定のコードを使用して接続してください。</p> <p>スピーカー端子とスピーカーの接続には、スピーカー接続専用のケーブルのみをお使いください。それ以外のケーブルを使うと火災の原因となることがあります。</p>
	<p>この機器をスピーカー駆動以外の用途には用いないでください。</p>
 プラグをコンセントから抜く	<p>旅行などで、長期間この機器をご使用にならないときは、安全のため、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。火災の原因となることがあります。</p>
お手入れについて	
	<p>お手入れの際は、安全のため、電源プラグをコンセントから抜いてください。感電の原因となることがあります。</p>
	<p>定期的な機器内部の掃除が必要です。長いあいだ掃除をせずに、機器の内部にほこりがたまったままにしておくと、火災や故障の原因となることがあるからです。</p> <p>掃除および費用については、お買上げ販売店にご相談ください。</p> <p>掃除の間隔は1年に一度くらい、時期は湿気の多くなる梅雨の前が、もっとも効果的です。</p>
 プラグをコンセントから抜く	<p>機器を移動する場合は、電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜き、機器間の接続コードなど外部の接続コードを外してください。コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。</p>
ご使用になる時	
	<p>電源を入れる前に音量(ボリューム)を最小にしてください。突然大きな音が出て聴力障害などの原因となることがあります。</p>

! 使用上のご注意

正しくお使いいただくため

お手入れについて

スイッチ・ボリューム・エンコーダー・接続端子などの部品は、**磨耗部品**といわれ、使用とともに性能が劣化します。劣化の進行度合は、使用環境などによって大きく異なりますが、劣化そのものを避けることはできません。劣化した**磨耗部品**の交換は、お買上げ販売店へご相談ください。

はじめに

このたびは、ヤマハ・パワーアンプP4500、P3200、P1600、P800シリーズをお買い求めいただきまして、誠にありがとうございます。

このオーディオ・アンプ・シリーズは、ヤマハの誇る精密な回路設計技術を駆使しPA機器の豊富な実績と経験をベースに開発した、ハイパワー、ハイクオリティかつ、高信頼性、高安定性を持ったパワーアンプで、優れた音響性能が得られます。

P4500、P3200、P1600、P800シリーズの主な特長

- ・ バランス型XLRタイプコネクタ、バランス型フォンジャック、およびバリア・ストリップの3種類の入力端子と、5ウェイバイディング・ポストの出力端子とを備えていますので、設備を始め幅広い用途にお使いいただけます。
- ・ CHANNEL AとBが独立して駆動するSTEREOモード、モノラルソースを2系統で出力するPARALLELモード、1台のモノアンプとしてハイパワーを発揮するBRIDGEモードの3つのモードがあります。
- ・ 各チャンネルごとにSIGNALインジケータとCLIPインジケータがあります。
- ・ パワーオン/オフ時の保護回路、出力ミュート回路、DC検出回路など様々なプロテクションシステムの状況を示すPROTECTIONインジケータとヒートシンクの過熱を示すTEMPインジケータがあります。
- ・ 無段変速・低ノイズのファンが、過酷な状況でも高い安定性を約束します。

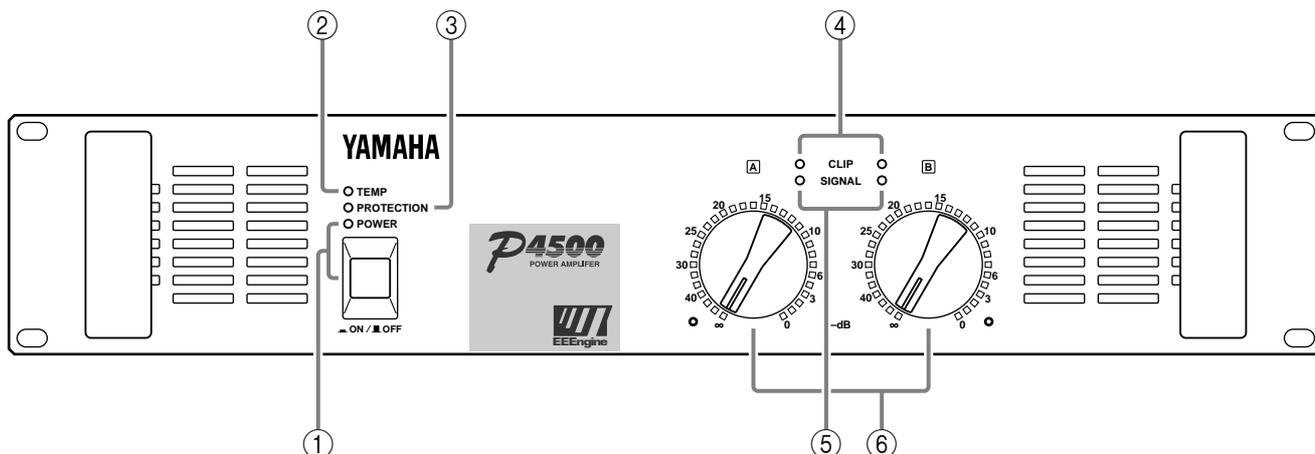
この取扱説明書は、P4500、P3200、P1600、P800の4モデル共通の説明書です。パワーアンプの性能をフルに発揮させると共に、未永くご愛用いただくために、ご使用前にこの取扱説明書をよくお読みください。

目次

各部の名称と機能	2
フロントパネル	2
リアパネル	3
モード：STEREO/PARALLEL/BRIDGE	4
スピーカー・インピーダンス	4
スピーカー配線	5
ラックマウント	6
EIA標準ラックへのマウント	6
4台以下のアンプを、背面の開放されたラックにマウントするとき	6
アンプが5台以上のとき、または（4台以下であっても）ラックの背面を開放できないとき	6
移動用ケースのマウント	7
仕様	8
一般仕様	8
ブロック図	9
寸法図	9
特性図	10
故障かな？と思ったら	10

各部の名称と機能

フロントパネル



POWERスイッチ / インジケータ

TEMPインジケータ

ヒートシンクの温度が摂氏85度を超えるとインジケータが赤色に点灯します。

PROTECTIONインジケータ

プロテクション（保護）回路が動作していることを知らせます。点灯中はアンプとスピーカーシステムとが切り離された状態になって、スピーカーから音は出ません。

保護回路が作動するのは、アンプ出力端子にDC電圧が出力されている場合や過熱状態などです。原因が取り除かれれば自動的に正常動作となり、インジケータの点灯が消えます。また、電源を入れてからアンプが機能し始めるまでの約3秒間も保護回路がはたらき、インジケータが点灯しますが、この期間を過ぎると自動的に正常動作に入ります。

CLIPインジケータ

出力信号の歪率が約1%を超えると、インジケータが赤く点灯し、アンプに過大入力があり、クリップしていることを示します。

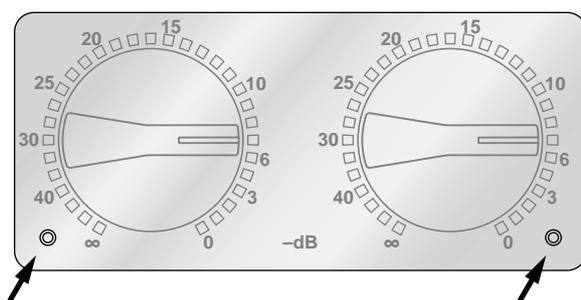
SIGNALインジケータ

出力レベルが2Vrmsを超えると、インジケータが緑色に点灯します。（8 負荷時1/2W、4 負荷時1W以上で点灯します。）

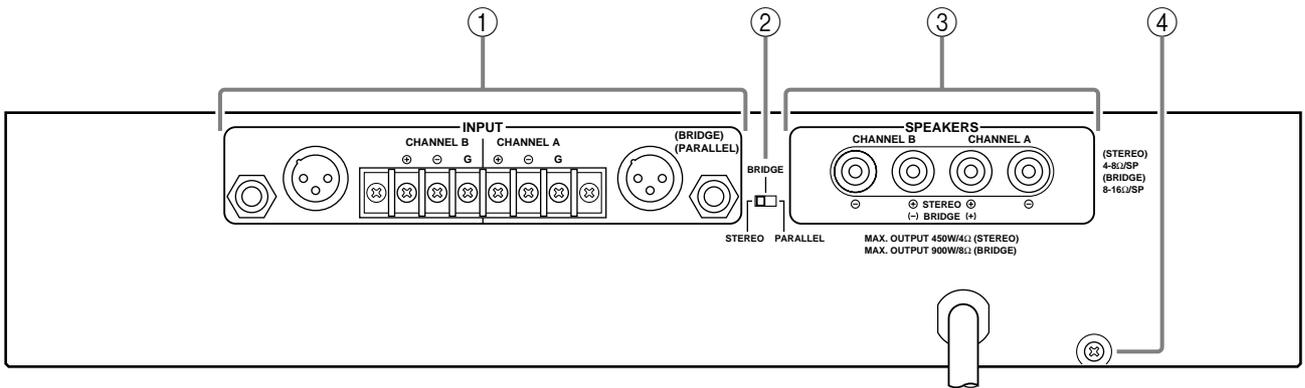
ボリューム

- dBから0dBまで、31のステップで音量がかえられます。

音量のセッティングを固定したいときは、下図のネジ穴に付属のセキュリティカバーを取付けて、ボリュームを保護します。



リアパネル



INPUT端子 (CHANNEL A, B)

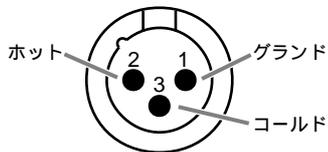
CHANNEL A, B ともに3種類のバランス型端子があります。

BRIDGEモードおよびPARALLELモードのときの入力端子はCHANNEL Aです。

・XLR-3-31タイプ コネクター

極性は次のとおりです (IEC 268)。

1: グランド, 2: ホット, 3: コールド

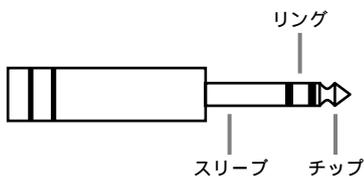


・フォンジャック

極性は次のとおりです。

チップ: ホット (+)、リング: コールド (-)、

スリーブ: グランド



・バリア・ストリップタイプ コネクター

極性は次のとおりです。

⊕: ホット, ⊖: コールド, G: グランド

STEREO/BRIDGE/PARALLELモード切り換えスイッチ

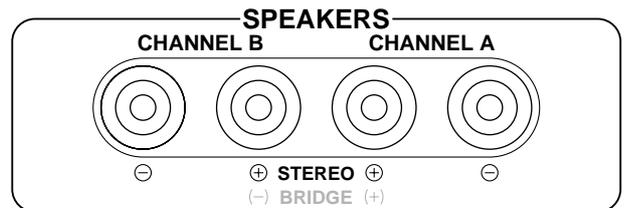
STEREO、BRIDGE、PARALLELの各モードの切り換えスイッチです。

各モードの機能は4ページの「モード」を参照ください。

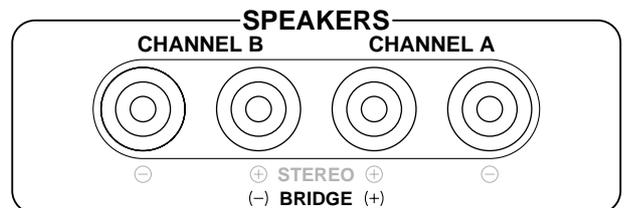
SPEAKERS端子

それぞれのモードの極性を下図に示します。

・STEREO、PARALLELモードの極性



・BRIDGEモードの極性



BRIDGEモードではCHANNEL A, Bの⊖端子は使用しません。

接続できるスピーカーシステムの最小インピーダンスは、4ページの「スピーカー・インピーダンス」に記載されています。

GND端子

アース用のネジです。ハムや雑音が生じる場合には、この端子により大地アースを施すか、ミキサーかプリアンプ等のシャーシと接続してみてください。

モード : STEREO/PARALLEL/BRIDGE

STEREOモードではCHANNEL AとBが別個に作動します（一般的なステレオアンプとなります）。CHANNEL Aの入力信号がCHANNEL Aの出力端子から、CHANNEL Bの入力信号がCHANNEL Bの出力端子からそれぞれ出力されます。

PARALLELモードでは、CHANNEL Aの入力信号がCHANNEL AとBの両方の出力端子から出力されます。CHANNEL Bの入力端子は使用しません。（チャンネル）**A**と**B**のボリュームは別個に調整できます。

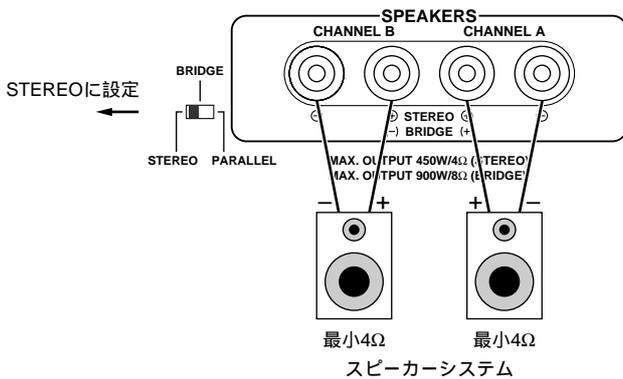
BRIDGEモードではCHANNEL Aの入力信号がBRIDGEの出力端子から出力されます。このときボリュームはフロントパネルの（チャンネル）**A**のボリュームを使用します。

スピーカー・インピーダンス

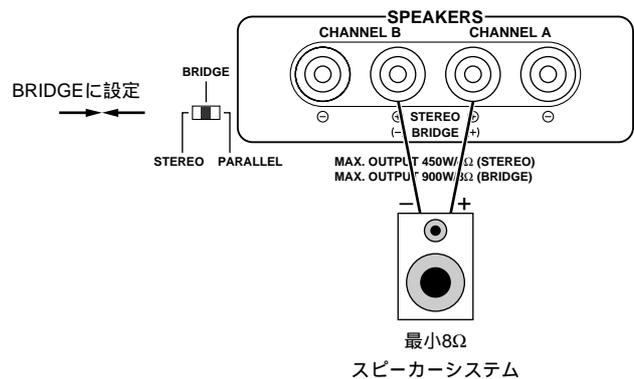
STEREO、PARALLELモードでは最小負荷（=スピーカー）インピーダンスは4Ω、BRIDGEモードでは8Ωです。

インピーダンスがそれより小さくならないよう注意してください。

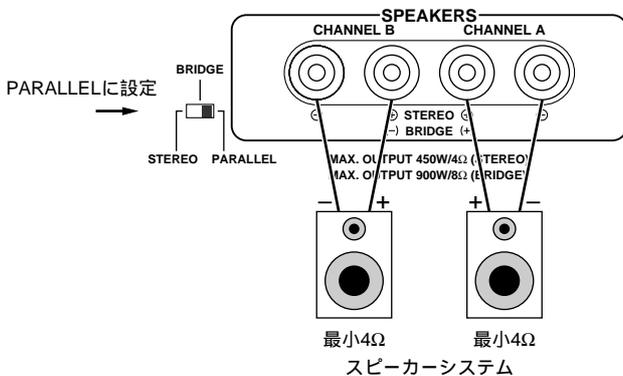
STEREOモードでの接続



BRIDGEモードでの接続

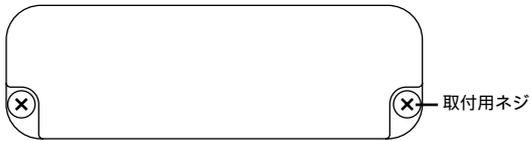


PARALLELモードでの接続

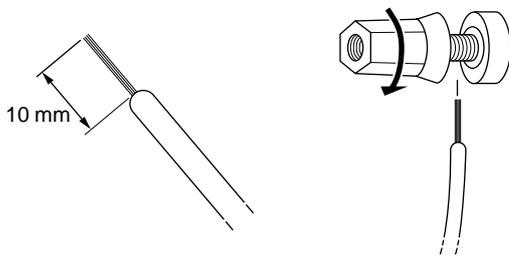


スピーカー配線

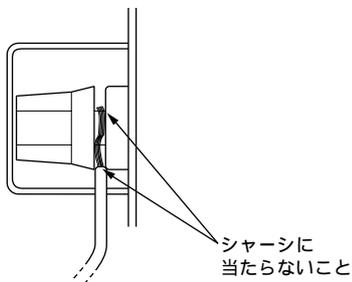
1. 電源スイッチをOFFにします。
2. カバー取付用ネジを外し、保護カバーを外します。



3. スピーカー線材の先端10mmの被覆を外し、スピーカー端子の穴に通すなどして、締め付けます。スピーカーの極性は3ページを参照してください。



この際、下図のように裸線がシャーシに当たらないよう十分にご注意ください。

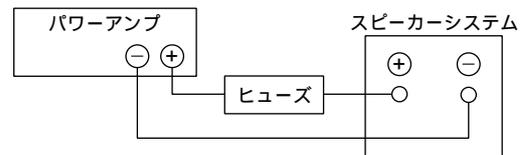


4. カバーを元の位置に取り付けます。

・スピーカーヒューズ

P4500ではステレオ動作時450W + 450W (8 Ω)、モノラル時1200W (8 Ω)、P3200ではステレオ動作時320W + 320W (8 Ω)、モノラル時860W (8 Ω)、P1600ではステレオ動作時160W + 160W (8 Ω)、モノラル時400W (8 Ω)、P800ではステレオ動作時80W + 80W (8 Ω)、モノラル時220W (8 Ω)の大出力が得られますので、十分な許容入力を持つスピーカーシステムをご使用ください。

ご使用になるスピーカーシステムの許容入力パワーアンプの定格出力値より小さな場合は、スピーカーとアンプ間に直列にヒューズを接続すると、スピーカーを保護することができます。(下図参照)



下の式を用いて、各スピーカーに応じたヒューズの容量の目安を求めることができます。

$$P_o = I^2 R \rightarrow I = \sqrt{P_o / R}$$

P_o [W] : スピーカーの連続許容入力 (ノイズまたはRMS)

R [Ω] : スピーカーの公称インピーダンス

I [A] : 必要なヒューズの容量

例) スピーカーの連続許容入力: 100 [W]
スピーカーのインピーダンス: 8 [Ω]

$$I = \sqrt{100/8}$$

上の計算から、必要なヒューズの容量は3.5 [A] となります。

・スピーカーケーブル

スピーカー端子とスピーカーの接続には、スピーカー接続専用のケーブルのみをお使いください。スピーカーケーブルを長く引き廻す場合は、ダンピングファクターの劣化やケーブル内でのパワーロスを防ぐため、できるだけ太い線材のケーブルをご使用ください。

ラックマウント

EIA標準ラックへのマウント

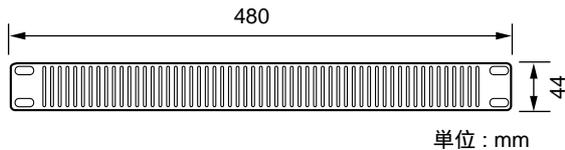
複数のハイパワーアンプを放熱性の悪いラックにマウントすると、各アンプからの熱でラックの内の気温が著しく上昇して、アンプ本来の性能を発揮できないことがありますから、マウントにさいしては、放熱のための通気を考慮しなければなりません。

そのようなときは、アンプの上下に吸排気用の通風パネルを取り付けてください。このとき、通風パネルは1Uサイズで、全体の面積の35%以上が開口している必要があります。

さらに、ラックの天板に排気孔があれば、より効果的です。

通風パネル

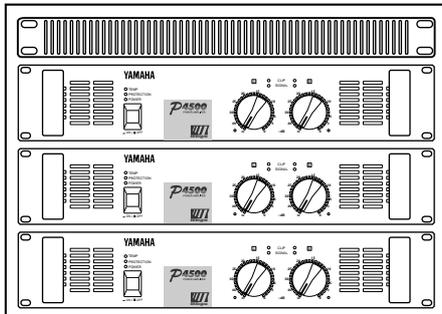
ヤマハでは1Uサイズの通風パネルとしてベンチレーションパネルVP1を別売しています。



4台以下のアンプを、背面の開放されたラックにマウントするとき

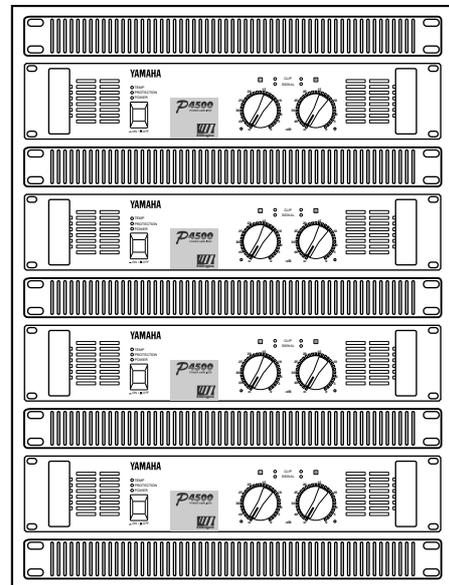
下の図のように、アンプの上部に吸排気用の通風パネルを取り付けます。

通風パネル
(ラック全面または背面に取付け)



アンプが5台以上のとき、または(4台以下であっても)ラックの背面を開放できないとき

下の図のように、それぞれアンプの上下に吸排気用の通風パネルを取り付けます。

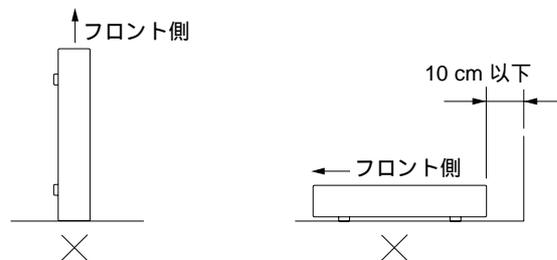


移動用ケースのマウント

1. 本機は前面吸気・後面排気による強制冷却方式になっておりますので、移動用ケース（ポータブルラック）に1台のみ収納する場合は、ラック後面を全面開放してください。



2. パワーアンプを使用する際、放熱空気流を妨げないように設置してください。



仕様

一般仕様

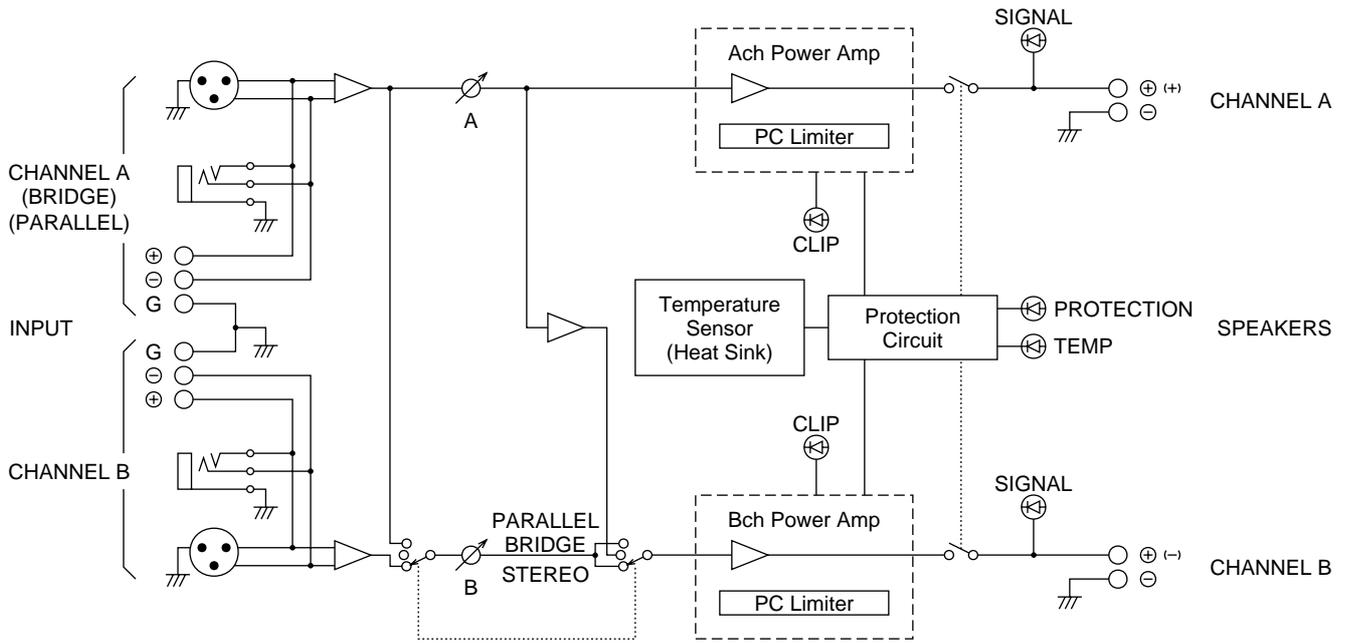
		P4500	P3200	P1600	P800
出力レベル 20Hz ~ 20kHz, 0.05%	8 /STEREO	450W + 450W	320W + 320W	160W + 160W	80W + 80W
	4 /STEREO	600W + 600W	430W + 430W	200W + 200W	110W + 110W
	8 /BRIDGE	1200W	860W	400W	220W
	1kHz, 0.05%	8 /STEREO 4 /STEREO 8 /BRIDGE	490W + 490W 680W + 680W 1360W	350W + 350W 480W + 480W 960W	175W + 175W 230W + 230W 460W
1kHz, 20ms, ノンクリップ	2 /STEREO	1300W + 1300W	950W + 950W	350W + 350W	210W + 210W
出力帯域幅	Half Power, 0.1%	10Hz ~ 40kHz			
全高調波ひずみ率 (THD + N) 20Hz ~ 20kHz, Half Power	4 ~ 8 /STEREO 8 /BRIDGE	0.05%			
ライン入力周波数特性		10Hz ~ 50kHz, +0, -1dB			
混変調ひずみ率 (IMD) 7kHz: 60Hz, 1: 4, Half Power	4 ~ 8 /STEREO 8 /BRIDGE	0.05%			
ダンピングファクター	1kHz, 8	200			
入力インピーダンス		30k /バランス型, 15k /アンバランス型			
残留ノイズ ボリューム min.	12.7kHz LPF IHF-A network	-75dB			
SN比 入力 600 シェント	12.7kHz LPF IHF-A network	105dB	104dB	101dB	98dB
チャンネル間セパレーション Half Power, 8 , ボリュームmax. 入力 600 シェント		65dB, 20Hz ~ 20kHz 75dB, 1kHz			
スルーレート 8 フルスイング	STEREO BRIDGE	30V/μs以上 50V/μs以上			
センシティブリティ (ボリューム max.) Rated Power into 8		+5.7dB	+4.2dB	+1.2dB	-1.7dB
ボルテージゲイン (ボリューム max.)		32.1dB			
コントロール	フロントパネル リアパネル	POWERスイッチ ボリューム (31ポジション dBコントロール) モードスイッチ (STEREO/BRIDGE/PARALLEL)			
コネクタ	INPUT OUTPUT	パリア・ストリップ端子 XLR-3-31タイプ 1/4インチ フォンジャック (バランス型) 5ウェイインディング・ポスト			
インジケータ	POWER TEMP PROTECTION (ミュート) CLIP SIGNAL	(ヒートシンク温度 85) × 2 × 2			
プロテクション		Powerスイッチ オン/オフ、ミュート、DC検出 TEMP (ヒートシンク温度 95)			
PC リミッター		RL 1			
冷却ファンスピード		低速 (50) - 可変 - 高速 (70)			
電源		100V, 50/60Hz			
消費電力		400W	350W	170W	100W
最大外形寸法 (W × H × D)		480 × 103.5 × 455mm、パネル高さ: 88mm, パネル奥行: 405.6mm			
重量		16kg	15kg	12kg	12kg
付属品		セキュリティカバー			
オプション		ベンチレーションパネル: VP1			

0dB = 0.775 Vrms, Half Power = 1/2 Power Output Level (Rated Power)

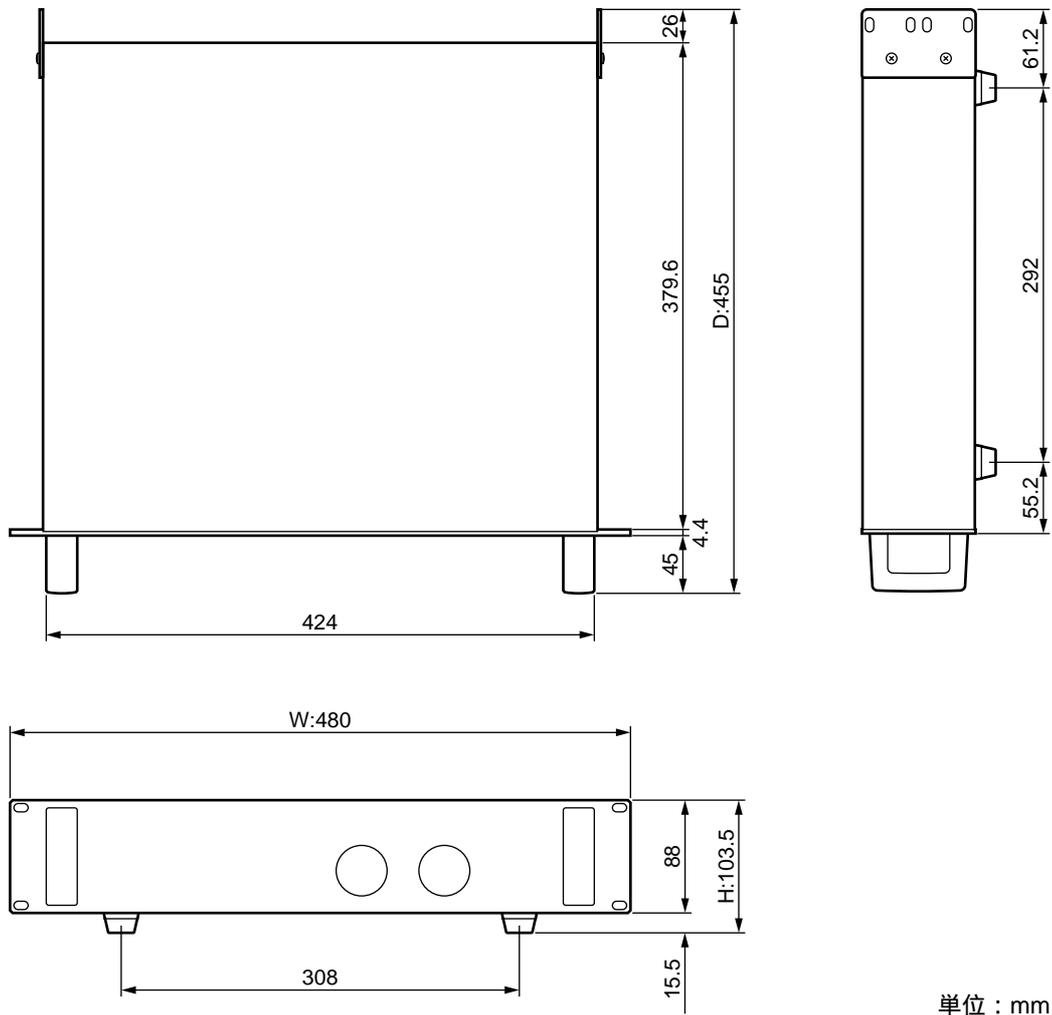
この製品は電気用品取締法に定める技術基準に適合しています。

仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがあります。

ブロック図

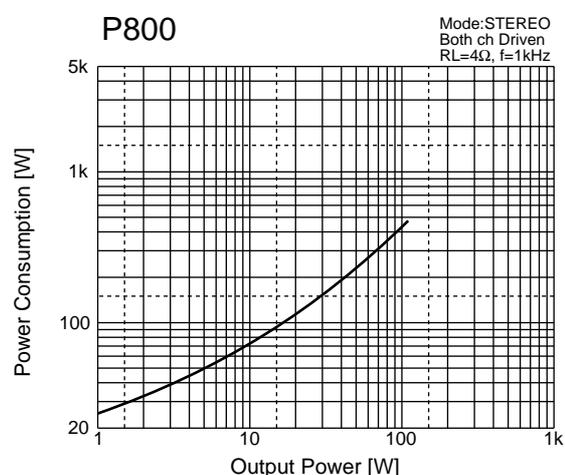
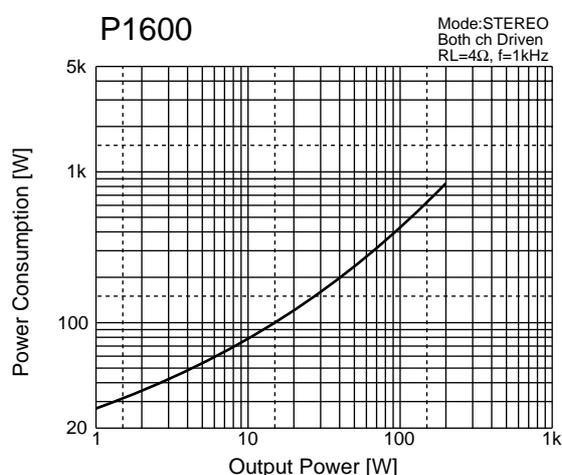
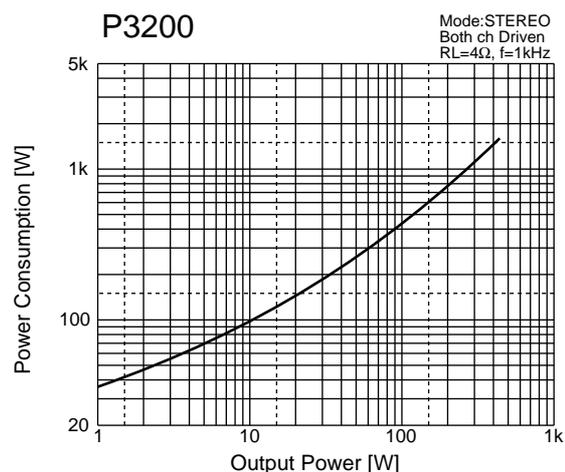
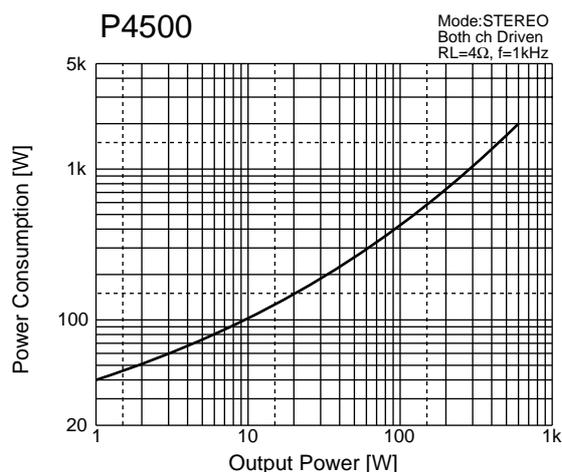


寸法図



単位 : mm

特性図



故障かな?と思ったら

主な異常動作の原因と処置および保護回路の動作

インジケータ表示	原因	処置	保護回路の動作
CLIPインジケータが点灯する	スピーカー端子、アンプの出力端子、ケーブル等でのショート	ショートしている箇所を調べる	PCリミッターが働き、パワートランジスタを保護
	アンプの負荷が過負荷になっている	スピーカーシステムインピーダンスをステレオ時4、モノラル時8以上にする	
TEMPインジケータが点灯する	ヒートシンクの温度が85を超えている	通風スロットを点検してアンプ周りの通風状態を良くしてください	TEMPインジケータによる警告
PROTECTIONインジケータが点灯する	ヒートシンクの温度が95を超えている	通風状態を調べ、放熱対策をする	サーマルプロテクションが働きパワートランジスタを保護
	パワーアンプの出力段にDC±2V以上の電位が発生	販売店、またはヤマハのサービス拠点にご相談ください	リレーが働き、スピーカーシステムを保護

サービスについて

保証書

この商品には保証書がついています。販売店でお渡ししていますから、ご住所・お名前・お買上げ年月日・販売店名など所定事項の記入および記載内容をおたしかめの上、大切に保管してください。

保証書は当社がお客様に保証期間内の無償サービスをお約束するもので、この商品の保証期間はお買上げ日より1年です。

保証期間内の転居や、ご贈答用に購入された場合などで、記載事項の変更が必要となる場合は、事前・事後を問わずお買上げ販売店かお客様ご相談窓口、またはヤマハ電気音響製品サービス拠点へご連絡ください。継続してサービスできるように手配いたします。

損害に対する責任

この商品(搭載プログラムを含む)の使用または使用不能により、お客様に生じた損害(事業利益の損失、事業の中断、事業情報の損失、その他の特別損失や逸失利益)については、当社は一切その責任を負わないものとします。また、如何なる場合でも、当社が負担する損害賠償額は、お客様がお支払になったこの商品の代価相当額をもって、その上限とします。

調整・故障の修理

「故障かな?」と思われる症状のときは、この説明書をもう一度よくお読みになり、電源・接続・操作などをおたしかめください。それでもなお改善されないときには、お買上げ販売店へご連絡ください。調整・修理いたします。

調整・修理に際しては保証書をご用意ください。保証規定により、調整・修理サービスをいたします。また、故障した製品をお持ちいただくか、サービスにお伺いするのもかも保証書に書かれています。

修理サービスは保証期間が過ぎた後も引き続きおこなわれ、そのための補修用性能部品が用意されています。性能部品とは製品の機能を維持するために不可欠な部品のことをいし、PA製品ではその最低保有期間は製造打切後8年です。この期間は経済産業省の指導によるものです。

お客様ご相談窓口

ヤマハPA製品に関するご質問・ご相談は下記のお客様ご相談窓口へ、アフターサービスについてのお問い合わせはヤマハ電気音響製品サービス拠点へおよせください。

お客様ご相談窓口：ヤマハプロオーディオ製品に対するお問合せ窓口

ヤマハ・プロオーディオ・インフォメーションセンター

Tel: 03-5791-7678 Fax: 03-5488-6663 (電話受付 = 祝祭日を除く月～金 / 11:00～19:00)

E-mail: painfo@post.yamaha.co.jp

EM営業統括部(営業窓口)

PAグループ

PA東京	☎ 03-5488-5480	〒108-8568	東京都港区高輪2-17-11
PA北海道	☎ 011-512-6113	〒064-0810	札幌市中央区南十条西1-1-50
PA仙台	☎ 022-222-6214	〒980-0804	仙台市青葉区大町2-2-10
PA大阪	☎ 06-6252-5405	〒542-0081	大阪市中央区南船場3-12-9
PA名古屋	☎ 052-232-5744	〒460-8588	名古屋市中区錦1-18-28
PA九州	☎ 092-412-5556	〒812-8508	福岡市博多区博多駅前2-11-4

企画推進室(プロオーディオ) ☎ 03-5488-5472 〒108-8568 東京都港区高輪2-17-11

PA・DMI事業部

PE営業部PA国内推進室 ☎ 053-460-2455 〒430-8650 浜松市中沢町10-1

ヤマハ電気音響製品サービス拠点：修理受付および修理品お預かり窓口

北海道サービスステーション	☎ 011-512-6108	〒064-8543	札幌市中央区南十条西1-1-50 ヤマハセンター内
仙台サービスステーション	☎ 022-236-0249	〒984-0015	仙台市若林区卸町5-7 仙台卸商共同配送センター 3F
首都圏サービスセンター	☎ 03-5762-2121	〒143-0006	東京都大田区平和島2-1-1 京浜トラックターミナル14号棟A-5F
浜松サービスステーション	☎ 053-465-6711	〒435-0016	浜松市和田町200 ヤマハ(株)和田工場6号館2階
名古屋サービスセンター	☎ 052-652-2230	〒454-0058	名古屋市中川区玉川町2-1-2 ヤマハ(株)名古屋流通センター3F
大阪サービスセンター	☎ 06-6877-5262	〒565-0803	吹田市新芦屋下1-16 ヤマハ(株)千里丘センター内
四国サービスステーション	☎ 087-822-3045	〒760-0029	高松市丸亀町8-7 (株)ヤマハミュージック神戸 高松店内
広島サービスステーション	☎ 082-874-3787	〒731-0113	広島市安佐南区西原6-14-14
九州サービスステーション	☎ 092-472-2134	〒812-8508	福岡市博多区博多駅前2-11-4
本社/CSセンター	☎ 053-465-1158	〒435-0016	浜松市和田町200 ヤマハ(株)和田工場6号館2階

所在地・電話番号などは変更されることがあります。
2001年10月現在

YAMAHA